

記者発表資料

実施日統一の土曜一斉休工について (埼玉県i-Construction推進連絡会) ～受注者アンケートの結果(概要)をお知らせします～

- ◆ 建設業界は担い手不足が懸念されており、埼玉県i-Construction推進連絡会においても若手技術者の確保・育成を中心とした将来の担い手確保につながる取り組みを進めています。
- ◆ 建設現場における「週休2日制」の確保を目指し、月曜日や金曜日の祝日を休めば3連休となる10月7日及び11月4日の2回を指定し、一斉休工の取り組みを行いました。
- ◆ あわせて、取り組み状況を把握するため、受注者に対してアンケート調査を行い、470工事から回答があり、調査結果をとりまとめましたのでお知らせいたします。

【アンケート結果(概要)のポイント】

- ・ 10月7日及び11月4日の2回とも休工としたが約8割
- ・ 一斉休工の取り組みは若手技術者の入職を促すために必要、建設業界に広がることは良い、発注者からの依頼がなければ休工としなかったとの回答が多数
- ・ 週休2日の実現のためには余裕のある工期、日給労働者の給与補償が必要との回答が多数

こうした結果を踏まえ、今後も埼玉県内のi-Constructionの推進に向けて、取り組み方針の検討や推進連絡会の活動を進めてまいります。

この取組は、10月に関東地方整備局が公表した「“地域インフラ”サポートプラン関東2017」で示した取組1「週休2日の取り組みを情報共有し、働き方改革を応援する」と取組6「生産性の向上」に対応したものです。

【“地域インフラ”サポートプラン関東2017】については、以下のホームページをご覧ください

<http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/index00000023.html>

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、埼玉県政記者クラブ、さいたま市政記者クラブ

問合わせ先

埼玉県i-Construction推進連絡会

代表(事務局) 国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所

副所長(技) 中島 祥行(なかじま よしゆき) 電話 048-669-1200(代)

総括保全対策官 俣島 信一(またじま しんいち)

埼玉県i-Construction推進連絡会

実施日統一の土曜一斉休工 アンケート調査結果の概要

1. 目的

埼玉県i-Construction推進連絡会において、建設業界の週休2日に対する意識向上を図るために実施した10月7日及び11月4日の土曜一斉休工について、その取り組み状況を把握し、今後の推進連絡会活動の基礎資料とするものである。

2. 対象

推進連絡会の構成機関（利根川上流河川事務所、荒川上流河川事務所、二瀬ダム管理所、大宮国道事務所、北首都国道事務所、埼玉県、さいたま市）が発注した稼働中の工事。

注)構成機関には発注機関のほかに(一社)埼玉県建設業協会が含まれる。

3. 回答工事件数

470件

4. アンケート結果（概要）

- ・ 10月7日及び11月4日の2回とも休工としたが約8割
- ・ 一斉休工の取り組みを行った会社のうち、土日祝日の3連休としたのが約6割
- ・ 現場だけではなく会社も休日とした工事が約4割
- ・ 休日の過ごし方は自宅で休養、または家族や趣味の時間に費やしたが多数
- ・ 一斉休工の取り組みは若手技術者の入職を促すために必要、建設業界に広がることは良い、発注者からの依頼がなければ休工としなかったとの回答が多数
- ・ 週休2日の実現のためには余裕のある工期、日給労働者の給与補償が必要との回答が多数
- ・ 自由意見においても、余裕工期の設定、日給労働者の給与に関する意見が多数

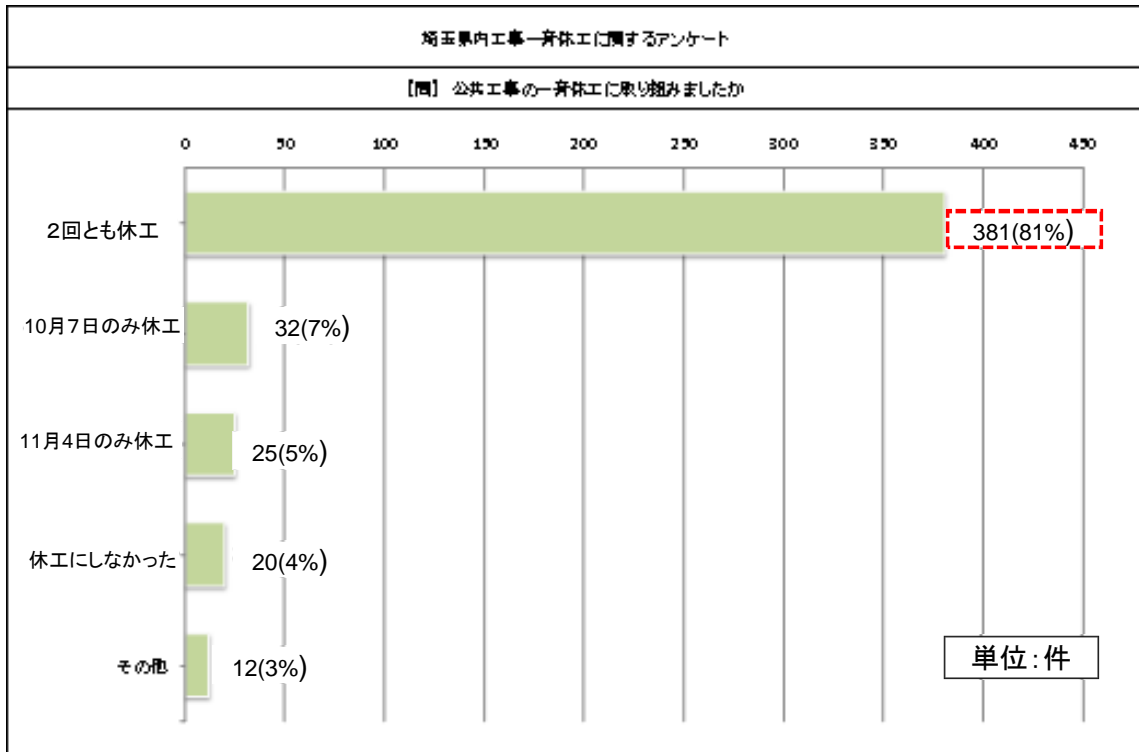
5. 参考【経緯】

- H29. 2. 23 県内でのi-Constructionの円滑な推進を図るため、国、地方公共団体、埼玉県建設業協会による埼玉県i-Construction推進連絡会を設立
- H29. 9. 5 平成29年度第1回埼玉県i-Construction推進連絡会において、実施日統一の土曜一斉休工に取り組むことを決定
- H29. 9. 6～ 発注者から受注者に対し、土曜一斉休工の取組について協力依頼
- H29. 10. 7 土曜一斉休工（1回目）〔対象工事 1,395件〕
- H29. 11. 4 土曜一斉休工（2回目）〔対象工事 1,452件〕
- H29. 11. 6 Webアンケートにより受注者（現場代理人）が回答
～11.17

6. アンケート調査結果について

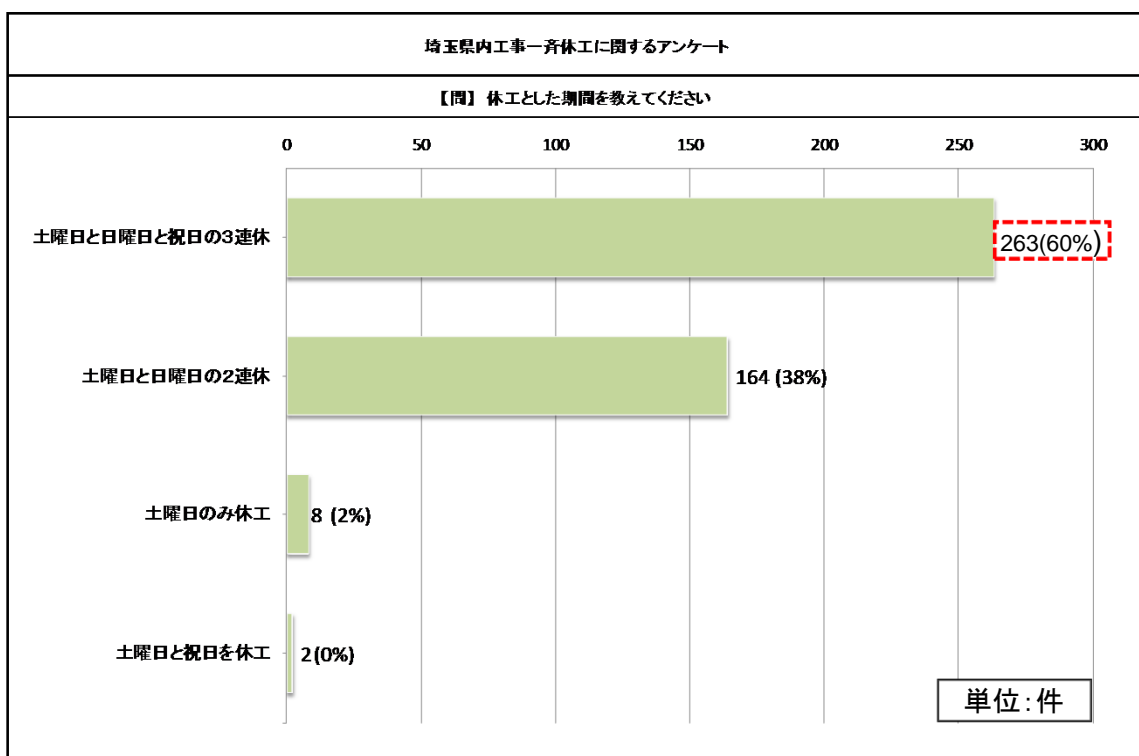
【問】 公共工事の一斉休工に取り組みましたか

- ・ 10月7日と11月4日の2回とも休工とした工事が約8割、1回だけの休工と合わせれば約9割
- ・ 休工しなかったが4%



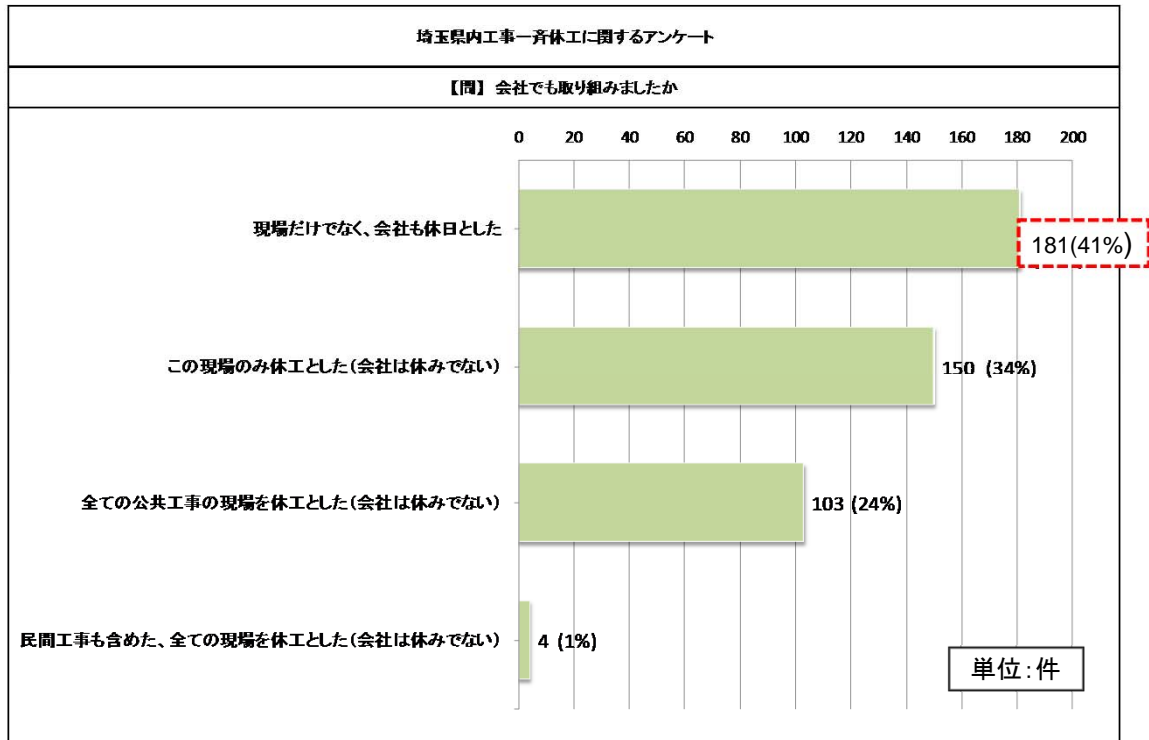
【問】 休工とした期間を教えてください

- ・ 土曜、日曜、祝日の3連休とした工事が約6割



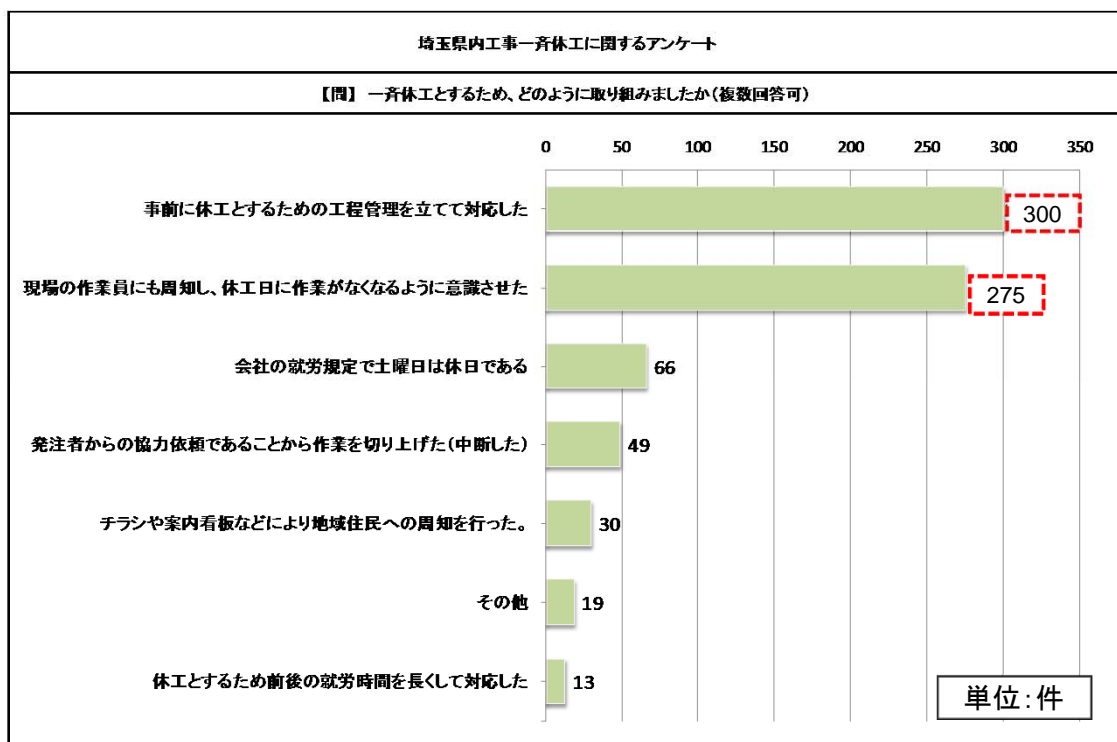
【問】 会社でも取り組みましたか

- ・ 現場だけではなく会社も休日とした工事が約 4 割



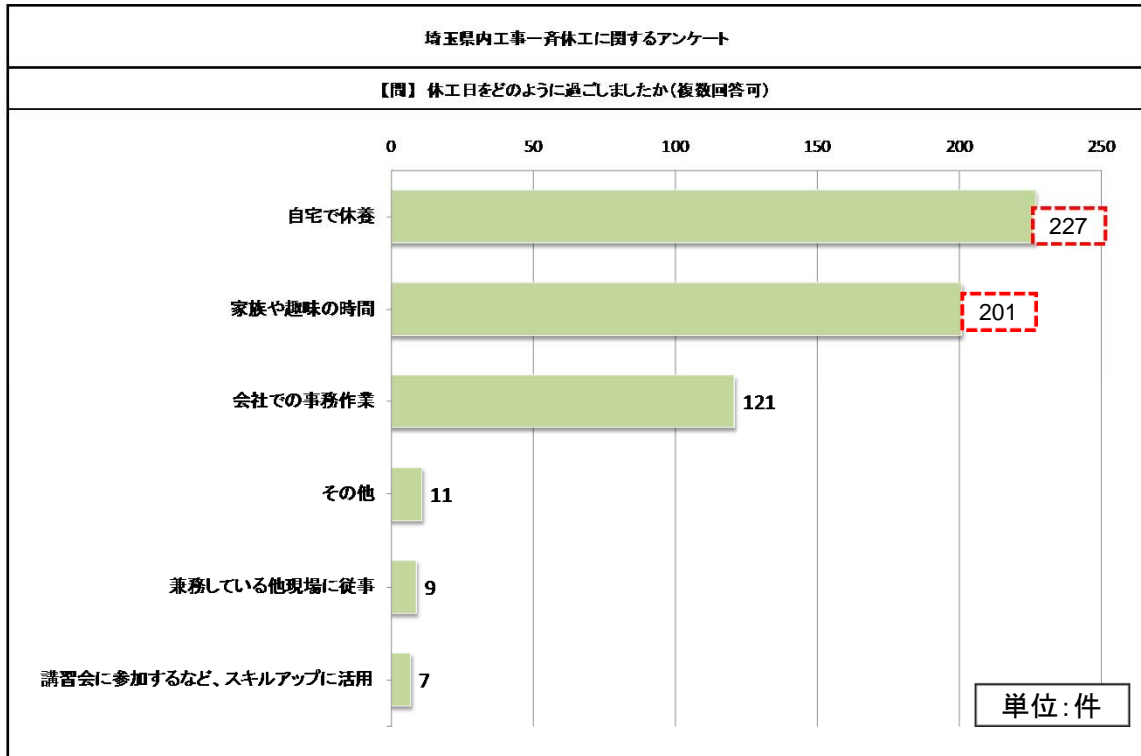
【問】 一斉休工とするため、どのように取り組みましたか (複数回答)

- ・ 事前に休工とするための工程管理の実施や、作業員への周知を行い、休工を意識させたが多数



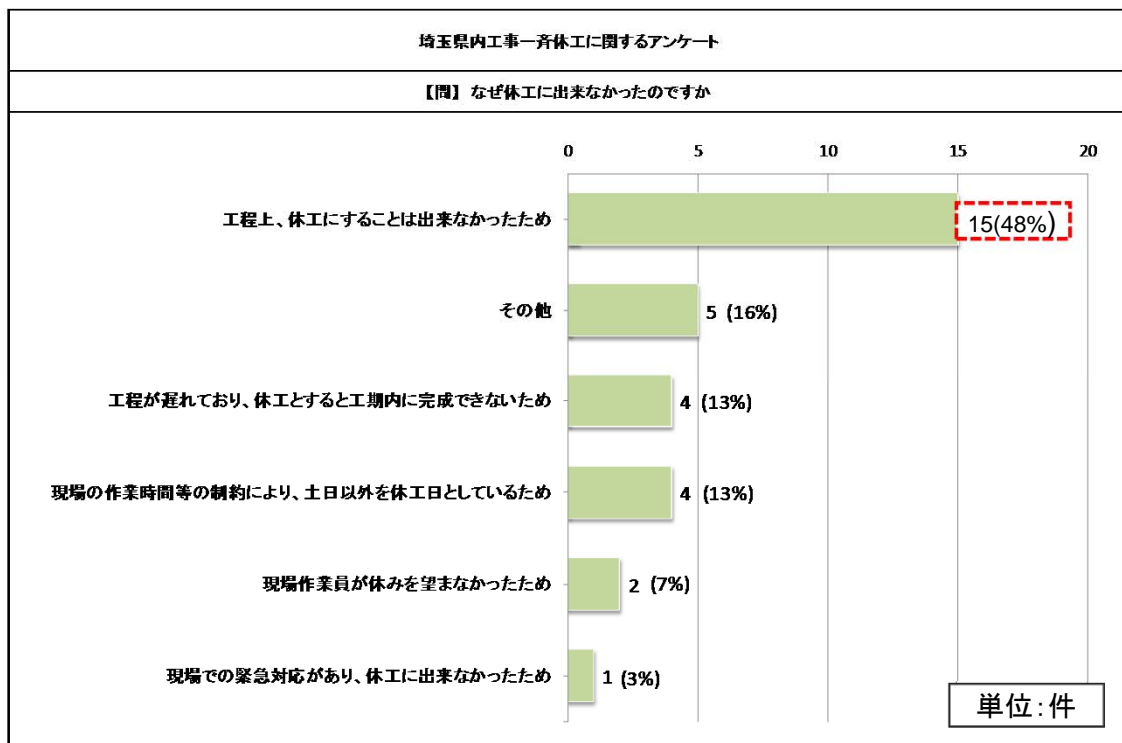
【問】 休工日をどのように過ごしましたか（複数回答）

- ・ 自宅で休養、家族や趣味の時間に費やしたが多数



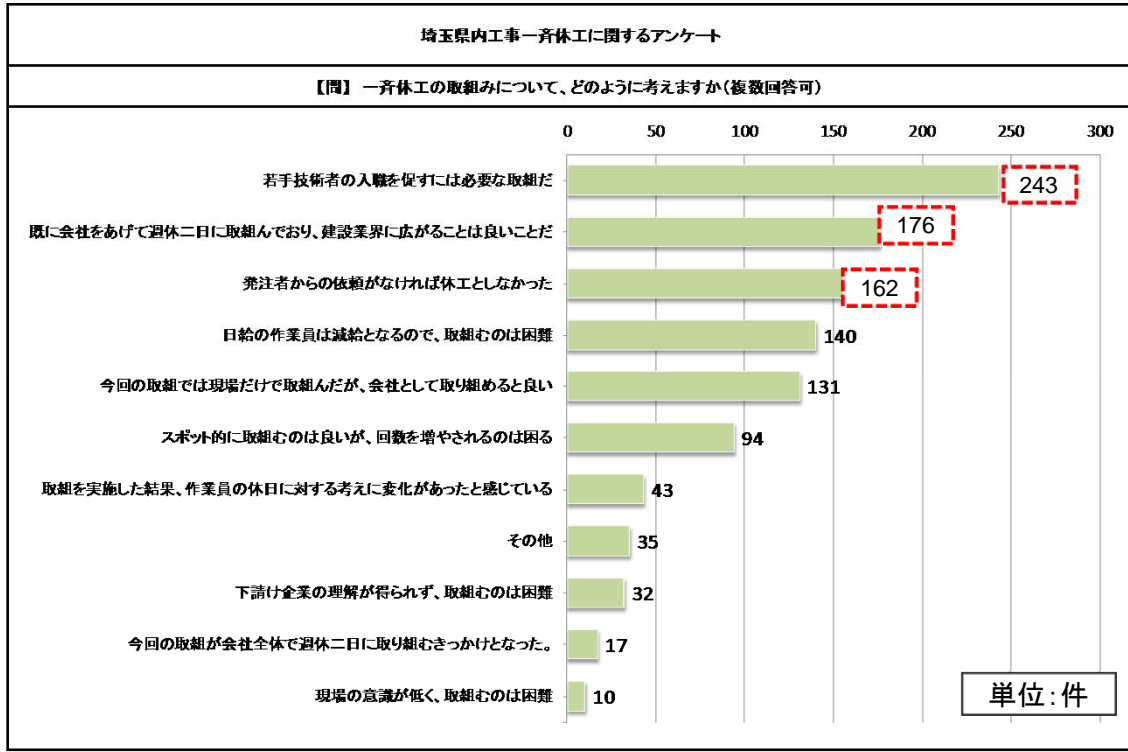
【問】 なぜ休工に出来なかったのですか

- ・ 休工しなかった工事のうち約5割が工程上、休工にすることが出来なかったと回答



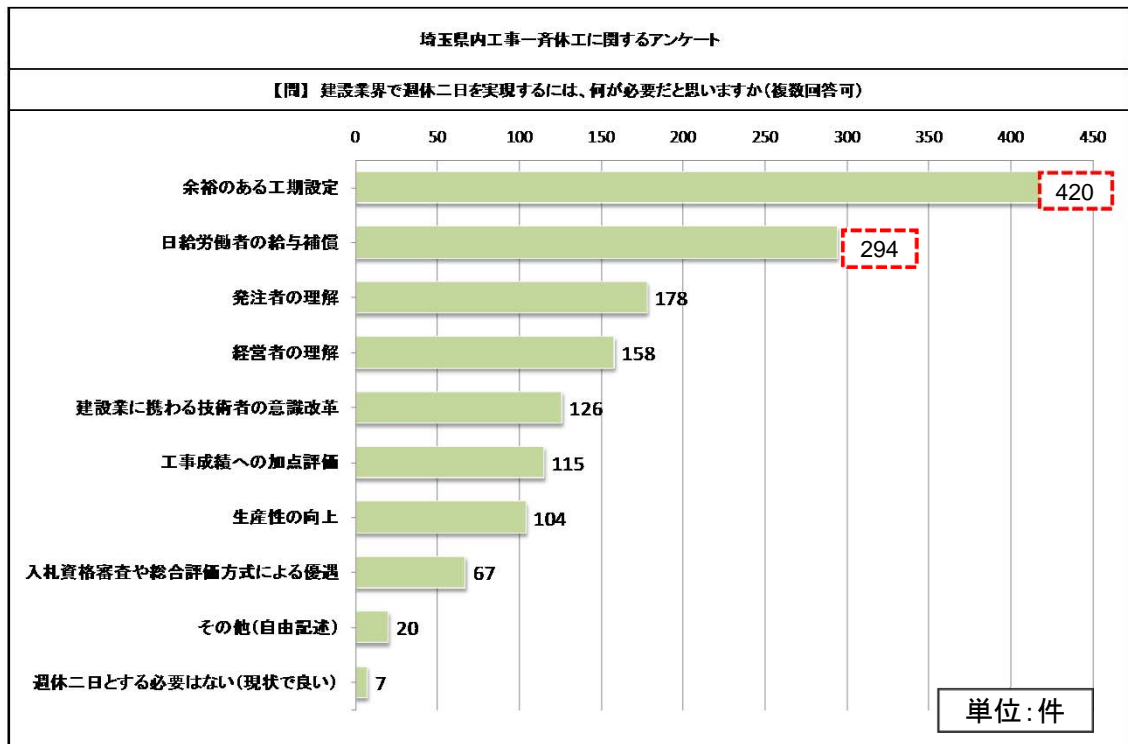
【問】一斉休工の取組みについて、どのように考えますか（複数回答）

- ・ 若手技術者の入職を促すには必要な取組みである、建設業界に広がることは良い、発注者からの依頼がなければ休工としなかったとの回答が多数



【問】建設業界で週休2日を実現するには、何が必要だと思いますか（複数回答）

- ・ 余裕のある工期設定、日給労働者の給与補償との回答が多数



【問】上記のほか、週休2日の実現に関してご意見がありましたら記入して下さい。

〔主な意見〕

- ・余裕のある工期設定が重要
- ・日給の作業員が多いことから給料体系の見直しが必要
- ・若手を確保する上で重要な取り組み
- ・現場が休工しても、代理人は書類整理に追われることから書類の簡素化を徹底させるべき
- ・工期に余裕があっても、現場では早期の終了が求められ土曜作業はやむを得ない
- ・発注者からの働きかけがあれば取り組みやすい
- ・発注者及び業界全体の意識改革が必要
- ・施工時期が非出水期に限定される工事での取り組みは困難